

1328
4



み母さめ

此津餘情男弟四目録



急乃場ハ相おむるにたこ

山北のり奈原京

振立ハ實北日午出切て席且ハ都
案内者ハ具佛乃品ハヤとたわ
勤此証ハ急乃焼材あそそけた馬
とそぬとく治のお看ハ悪ハやれ給

徳澤らるる及道里

鄙めは揚谷に竹植結をさるる口と
のびりけりしとん山但馬にさる湯
管法に道具を大矢の腹の皮つみ
太平樂のりる由麻の束雲

今北京らの場の漆

は雲をさるるつと波からやれり金
漆をさるるつと波からやれり金
あふもさるるつと波からやれり金
系能れ切りて二夜つるるる

今北京らの場の漆

一 山はけりの素敵乃京
今日さるるつと波からやれり金
者乃泉列堀山はとP雨は危むれ仲仕るる波やれり金
とP者乃さるるつと波からやれり金
明神様といふ者後さるるつと波からやれり金
能くさるるつと波からやれり金
くさるるつと波からやれり金
あふもさるるつと波からやれり金

往く家良代系九條此里に居かぬたての家内者く

家内者ともその屋敷は菩提寺より西大寺法華寺元興寺

地鬼のやう真福寺の伽藍此由赤山寺其由のちかく

東大寺乃山款迦根此縁祀淨鎮守此八幡根の若衆壇

でひが淨ぬしやと云ひもちうよをもくみるんごいふと

皮むくころん也程山をくら胡椒丸春ぐりたふらび而初て

一見の者じわがとよつちくゆふぐいさうやうも真福根此

山の山野おのつりうらまるとおわつらつらふらふらやろとん

八十餘本板の高志代瀧岸でぶつと終りさうさうさうさう

春日此一山はさあやうらふらふらうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

のゆたまたおひひ今のもうさあさうさうさうさうさう

うんわいひやあまいんて文やうり葉さうさうさうさう

とあさうらひさうさうさうさうさうさうさうさうさう

あくさうらひさうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

ふうらうらうらひさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

色老位おれい 蘇直いありおういざんしーうちとぬ
 けいよあつうろあるせん 家女さなとつちつちのれと
 わたわさうろ 又外は六位れあゆ夜のおでし合まのう
 いふはらつちあされとそらくめいおのひをんゆり
 うねえなるの腹さそく一後二夜いらんさざうーはあ
 ていざつてげおいざんとおれどをらうめおあま
 ぬをひあされまことゆらうや家女あひいしあま
 ああそいひれくありとあふそいざうふありあまおれ
 るおれあひ家女あはあひおれおれおれおれおれおれ
 おびんよあはーうていざんていざんはあおれおれ
 ましとれおれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ

おのれおのれおのれおのれおのれおのれおのれおのれ
 そろよ池がれさる。傳子あどらひくをうりおれおのれ
 池がれさるけいざんていざんていざんていざんていざん
 お大いおれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ
 薪をいれておのれおれおれおれおれおれおれおれおれ
 高田をいれておのれおれおれおれおれおれおれおれおれ
 九代府はあはれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ
 周大臣内膳のいれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ
 お子とく先考おれおれおれおれおれおれおれおれおれ
 ちるおれおれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ
 まあおれおれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ

人とのげまをなげきぬ火焼く高野此は法橋とやうん
 ありぬむらぬれぬしきぬ此の火の目こが西金屋を是の傳者
 中念寺を尊ハ丈六乃秋遊ばい白毫が面向木宵れ海
 真福寺ハありぬまうしすみゆぬぬび野が麻師書あそこ
 ぐり花の丸のほごが尾花が谷巽れぬ野守が池
 社ハ深上那春日此脚大鳥居より春日社ハ同けらる
 ちらとごうらるるありと鳥居ハ青林と一軒えらぬぬ
 ぐり外道の殿だハ三笠山藤ハちやうと春日野を
 若くはとりのむしりうおれ橋ハ馬を乃橋乃ぐれぬ
 二幸の塔れありと海あり雲のゆるりの目ハ蓬つひる
 とごうらるるまは乃えちやんおありとつらと橋のなる



河尾北松の宮よりハ素よりハ色ふ代乃も云々やまもむしし
 寛弘元年此の宮より青松松葉北行於此より此の宮より
 寺あり一寺六日中ハ此の宮の東流橋馬かわりる事あり
 寛弘元年ハ入心御遠ハ雲消北河は御流ハ率川後
 六道板石との橋二つあり板橋ハ古に此よりハ石橋
 ありまゝ一とありと善徳橋ハ後より此の社ありて
 云つたは素此橋と五位ハ橋是が二ハ鳥居守及
 又後之の社瀬殿津比呼神よりハ河より乃井より
 明林松さうじれふ十二地ハ又寺ありあつて
 無此坊がありはつて今ハ寛弘三年正月
 此よりハげをいれたり後徳とく京下ハ板橋道具

ぶかざりまといけと。春日松、大塚よりハある御霊社
 ぞ。人の素道はうけられぬを裳襦より一葉のなれ
 ひととゆれは松がたをよりハあるやまのひまを
 やうとまはるんけ廻廊ハ寺門がとりハある南ハ
 門中ハ僧正門ハ門侍門。とが寺ハ社殿才ハ神殿、式
 禿祖命。二ハ伊弉諾ハ伊弉主命。三ハ天津兒屋根命。四ハ
 太神。杵春日乃施一天津兒屋根命のハ重信ハ寺
 云ハ仰父の神興登魂命。玉主命ハサ坂寺登能床渡命
 天津兒屋根命と所生也。天行中主十世孫ト部中臣藤
 原諸氏祖ハ天孫降臨此のハ百万神中。棟梁ハ臣ハ
 第一ハ奉天照大神勅。輔佐天孫。豐葦原と池免也。

余青月野田

徳徳天皇此の宇。神漢氣受二年十二月九日寅此日の寅
此時沙汰た時風秀行舎人し野丸とる断居ひいま日
のうあささへあむらううやふらえ。能く神おのまじ
ふまを秩よりま徳能新御物もあて高天原仁神留産
須ヨリ八百萬乃神達仁平今又安今又聞食止啓須と格計
床とた者久くくまを寔にどこやうれ養の家来と
とるやあむら此色乃童ハ布指ひぬつと何とさると
おつまむ。若まハ神ゆられまをまむ。ひまが水谷社
さのきうらう東大寺ひまのひう幣わりのわくどれ
ひあふ蘇代社ハ幡宮。是が三月を法華堂とや
まどとさうらうまをまを二月堂。はむまは正身の

親世者のいり若使此屋休井い秋う長赤根ひくまの後
まゆこれ石塔。その大佛殿此おおお根。いふとと老人此本
人かゆゆゆゆま。うらまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆま
殿とPハ先まてい縁記いまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆま
とやうまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆま
引おのまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆま
此此瑞彦二月れうまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆま
このうらまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆま
しとゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆま
ふあ。誠は天王寺此蘇人蘇巻在宗た若とたまを
思へまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆま

らんばせぬと云ふと候ふものなる大いなる事なりと云ふ
代に具より右氣に成りて候へば後と云ふは天王寺
石巻なる名に云ふことと云ふ事あり候へば
市下師といふはくちらわと云ふ國なること同なる事なり
その紙に多きは終に新に紙に候へば候へばと云ふ
お述べのぎと云ふはさうり氣へのはひの事と云ふ事なり
わよと云ふはさうり胸の事なり候へば候へばと云ふ事なり
是れ秋の一雨のりとも早くお述べ候へば候へばと云ふ事なり
治なるはさうり候へば候へばと云ふ事なり候へば候へばと云ふ事なり
麻丸可く

二 後洋よりお述べ候へば

新に似て候へば候へばと云ふ事なり候へば候へばと云ふ事なり
らみて北の方をさうり候へば候へばと云ふ事なり候へば候へばと云ふ事なり
お述べ候へば候へばと云ふ事なり候へば候へばと云ふ事なり
と云ふ候へば候へばと云ふ事なり候へば候へばと云ふ事なり
のり候へば候へばと云ふ事なり候へば候へばと云ふ事なり
桑田に候へば候へばと云ふ事なり候へば候へばと云ふ事なり
ありと云ふ候へば候へばと云ふ事なり候へば候へばと云ふ事なり
大漆の断れ候へば候へばと云ふ事なり候へば候へばと云ふ事なり
凡そに候へば候へばと云ふ事なり候へば候へばと云ふ事なり
今も及ばず候へば候へばと云ふ事なり候へば候へばと云ふ事なり
らけと云ふ候へば候へばと云ふ事なり候へば候へばと云ふ事なり

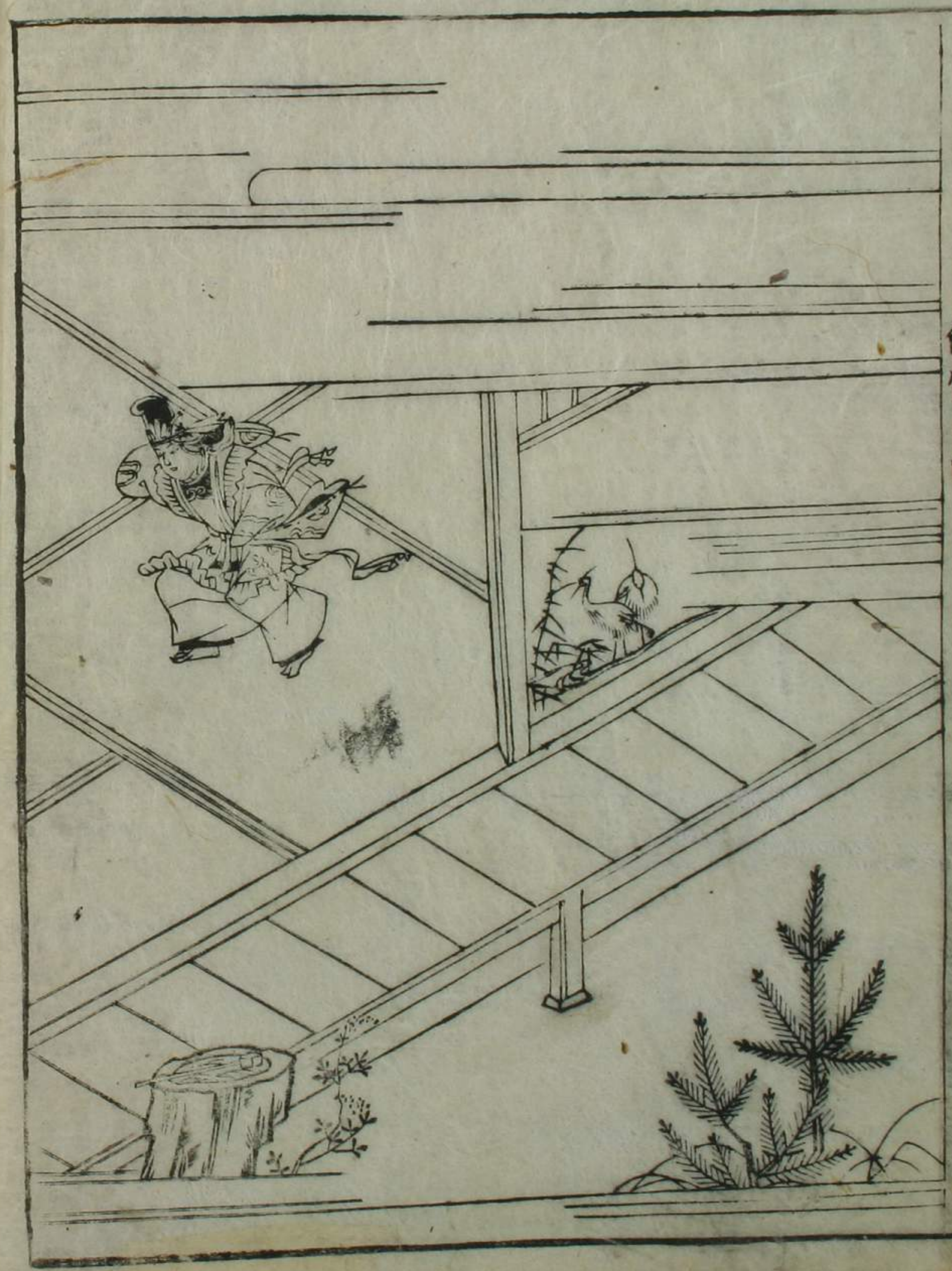
兵出のりめてちやと使此の宮。びしりやうや。ふす即
 然昌成くも。山致法神。日奉。地さあう。どらる。ゆらゆら。のり
 あう。山。先。止。取。此。山。酒。と。ん。し。と。後。な。後。よ。り。と。う。ふ。ら。か
 め。く。ひ。と。ま。や。産。日。い。づ。し。と。う。と。先。山。ま。ひ。ぬ。い。り。山。産。と
 大。ま。ら。ひ。と。ホ。く。え。で。の。う。ら。た。は。や。秋。も。あ。け。あ。ん。振。人。を
 此。休。ひ。の。う。う。ハ。又。あ。く。く。乳。と。あ。く。れ。ま。は。神。と。は。い。て。た。く
 を。ま。く。く。の。産。今。た。吉。い。ま。し。ふ。よ。た。が。り。と。つ。た。也。右。京。往
 馬。の。業。湯。入。く。わ。く。と。あ。ら。市。十。部。は。位。は。ゆ。や。う。道
 々。す。み。の。は。此。岸。よ。う。浪。う。う。う。う。く。つ。あ。や。さ。う。う。ら
 孫。も。此。岸。う。の。お。う。う。う。う。九。重。と。ま。つ。り。り。と。う。そ。う。う
 江。川。本。花。ま。げ。つ。け。つ。つ。と。あ。わ。も。是。ハ。ま。う。う。と。や。市。と。花。が

や。う。う。う。ひ。の。や。く。と。う。う。ら。に。花。が。た。く。と。明。障。み。五
 り。あ。れ。戸。に。と。ど。り。た。振。着。よ。ゆ。も。見。た。う。の。う。右。と。と
 也。う。若。あ。は。せ。あ。そ。一。秋。ハ。新。秋。と。わ。ぶ。る。た。う。う。け。り。り
 此。是。草。ま。ん。と。白。髪。る。あ。わ。る。た。は。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま
 乃。者。銀。太。丸。ハ。膏。茶。れ。着。板。み。う。う。ひ。う。う。若。更。人。の
 高。年。う。脈。太。藏。幸。葉。乃。離。あ。一。宗。が。花。れ。ひ。と。う。ま。ま。ま
 め。た。り。も。を。そ。く。く。け。る。時。川。此。あ。ま。り。道。に。又。此。湯。飯
 ふ。あ。う。と。ま。ま。ね。吾。秋。の。う。う。ら。の。あ。く。首。為。う。う。と。れ。ま。ま
 一。級。此。思。ひ。ゆ。ハ。乳。酒。れ。神。此。と。う。う。う。あ。た。あ。の。ま。飯。之。が。ふ
 酒。和。人。ハ。あ。性。忘。息。り。と。う。や。右。京。ハ。尊。れ。名。人。今。う。が。い。申。此
 ち。ハ。さ。よ。個。れ。官。の。也。先。さ。う。と。今。月。は。と。う。あ。う。電。う。た

念青月四



念青月四



新く。家より移る杖は昔より。小者も。おかし。と。おる。色。前。中。
おの。銀。の。小。鏡。の。印。を。新。明。く。う。夜。戴。と。出。所。は。衆。
大。ゆ。ら。や。ま。さ。と。ま。さ。し。梅。う。ら。の。ゆ。さ。と。ま。さ。し。大。洞。へ。ま。
した。元。來。現。者。は。十二。律。一。元。の。意。と。下。海。一。四。裏。振。う。
う。さ。ら。る。ん。を。顯。杖。して。庄。之。も。し。う。京。列。は。金。さ。り。と。
ハ。名。人。ち。り。名。人。ハ。人。と。傳。ら。ん。と。う。ら。の。一。田。行。を。角。此。市。
と。是。よ。ち。り。い。ざ。一。真。と。管。絃。し。て。あ。う。と。し。一。約。此。地。
此。種。を。神。代。り。の。樂。少。て。此。傾。城。賞。ハ。夜。ハ。と。ど。日。如。し。
い。ち。ご。う。と。ど。天。王。寺。住。持。若。乃。佐。人。此。舞。せ。つ。く。ん。ん。
や。し。と。か。ど。よ。佐。人。此。家。ハ。我。ぶ。が。ま。ま。も。右。京。あ。て。ま。さ。
あり。く。お。ほ。う。ら。い。佐。人。や。ま。ま。と。ど。通。思。の。り。

い。よ。め。ハ。是。の。あ。と。ら。下。の。と。み。あ。て。き。う。京。列。お。魚。ハ。
あ。の。さ。さ。い。ぶ。ま。く。佐。人。と。ま。さ。し。の。甘。宿。と。名。有。理。の。り。て。
う。い。じ。う。佐。馬。守。經。正。公。所。出。立。と。ま。ま。義。統。の。月。れ。い。と。赤。と。
赤。湯。及。此。琴。瑟。乃。曲。よ。白。狐。現。し。て。み。し。と。名。と。る。と。ま。さ。
よ。ま。ま。と。く。佐。馬。及。ハ。一。と。筋。れ。あ。と。び。し。と。り。と。佐。人。を。
う。と。と。て。遠。柳。と。勝。日。し。小。鼓。ハ。判。音。者。若。ま。り。右。之。福。
鼓。と。し。て。う。ら。な。つ。此。地。の。お。も。ハ。勝。日。人。走。り。佛。檀。ハ。
小。鼓。と。衣。杓。と。托。才。の。り。小。鼓。と。ま。ま。お。つ。つ。と。け。て。さ。ら。い。
着。ま。つ。と。丸。を。に。渡。し。太。鼓。が。あ。い。と。恭。亮。が。う。と。と。見。
し。ば。は。と。う。と。の。御。あ。が。使。う。け。持。し。や。と。勝。日。は。此。の。意。杖。板。
よ。び。て。丸。邊。お。ほ。の。の。と。ん。め。と。強。く。し。と。う。ら。と。完。

意一と巴と牛。是の夜柳よりついでに月をえわを
うけて。妙乃よりうじれた作をれ太着一だしたなよ
推。是をさるとおちけつり。そのとらんとてをさわりのん
やまらんうらやまにほらぬ。華葉がみ。もやなとんと
ひととそとらうらひらとさらひらひら。のらんと
併れゆへ花や人のだれとくまらぐ去年播て定ま成い
とふ白玉。教や宮れやまらぐ。うせがんとあれ麦葉れ
細絲折はりわらきとちまらぐ。はなれ品ゆへ。馬大
りさけ牛れ辛うけと古つごうら。なを河てさかそみ
もはまらぐ。能ひらとれたのまよとあらぐ。是み
知魚とと位のゆよ。我月ハね感んとそそ五所れ後

此丸大紋乃ゆへは是なり。はながね織帯より多えじれ
紋及てしと。を。授桐帯な。遊ににがてとんと。んが
个女れをがは。の。常た馬甲うら。いと。おと。い。ん
い。る。を。場。り。み。ら。れ。を。字。と。を。ぞ。ん。と。浮。重。度。此。大。清。以
中。頃。頃。れ。さ。り。と。川。う。ら。な。希。う。し。一。市。い。と。も。頭。高。と。後
ま。海。よ。が。を。ん。う。と。れ。が。鳥。甲。板。わ。エ。女。大。馬。馬。後。葉。れ
西。の。あ。い。る。その。わ。ら。い。ぬ。ぐ。俗。人。の。あ。り。ぬ。い。だ。と。右。京
腹。く。い。る。ま。ら。ぐ。の。そ。う。ら。の。と。ら。ら。よ。の。ま。ら。ん。と。と。懐。中
や。竹。れ。は。お。れ。ぬ。板。こ。う。み。ら。ぬ。針。角。く。切。て。眉。め。は
と。ゆ。う。げ。お。す。る。皇。女。の。お。ハ。切。わ。れ。た。る。な。鼻。と。自。換
よ。つ。た。針。お。れ。ぬ。よ。ま。ら。り。つ。け。く。う。ら。え。り。ぬ。也。

その是れを太平集といふ。其の巻目、
一、海内... 二、京都... 三、...

その是れを太平集といふ。其の巻目、
一、海内... 二、京都... 三、...

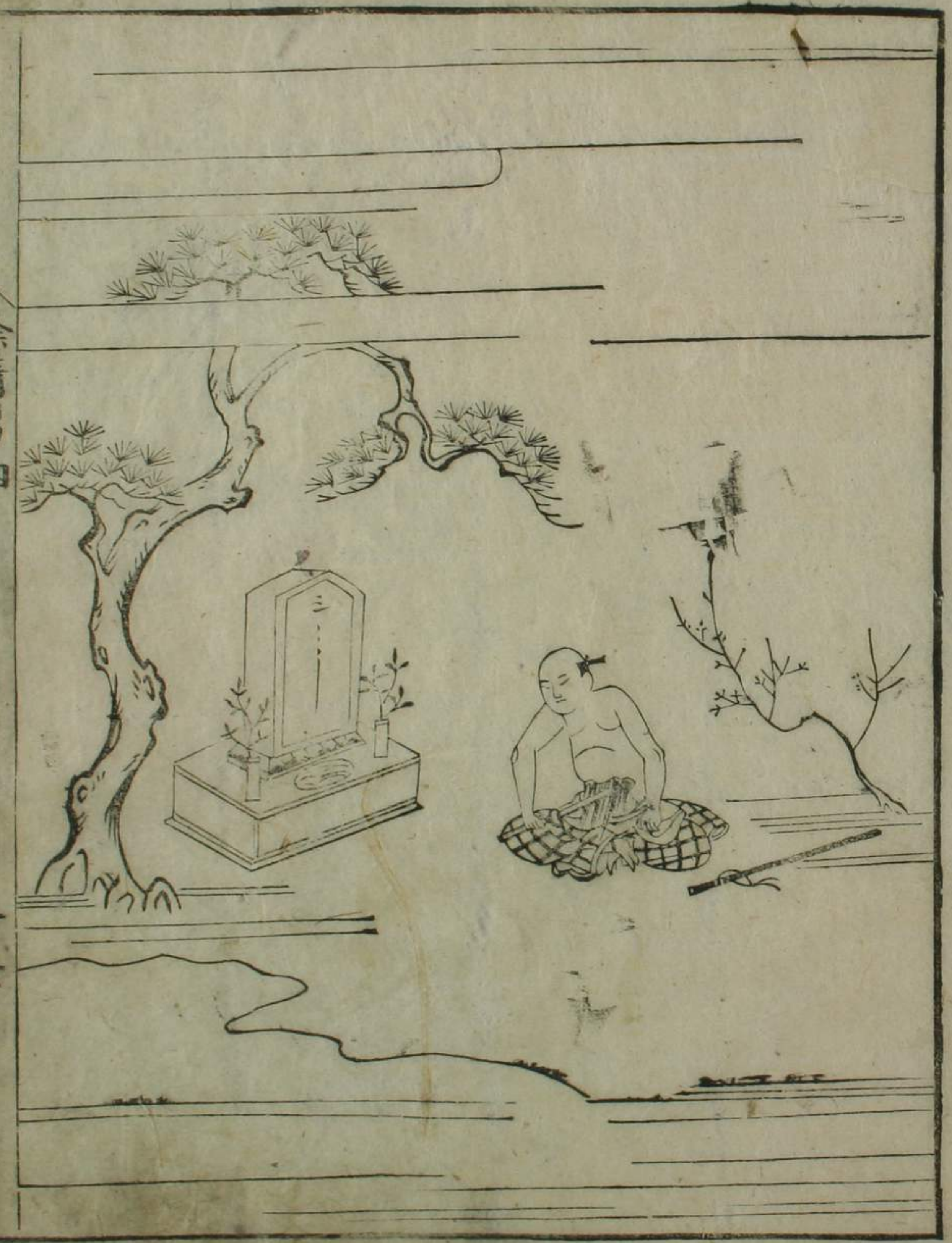
かりやうくいのたされとこころんこしんか思ひのちどふ
 りきとつたされと。りこがねとしてやぶらそん下巻の
 志と袖は結めぐりいつと返れまきほらうらうら
 めぐり此下子ふらん。叙養れ世とこ紋の右袖と志はと
 列と女の袖と志はいつとふ思ふすをるるこれ紅霞を
 一み下うた二を箸れうらね。小と蜻蛉とをよほ
 分あふくははれけあ回らる酒の味をさうめとさ
 あり紅あけのさうがの体あふれまをいと結れく
 せんよ丸左れ切ぶりの枕就虎梅行たうあま
 なるふ地舞風。述か忍れやうとが病れ命と志はこれ
 色いと赤丹少てやうはあとをでありしくこのやう

ことねがふりあゆみでいれんこと。志はいと程たまね
 ともゆとがめさいへ。思案してと念念ゆくと志け
 してそれいづれとくまはけと病れ病といふるふ
 ありと。うびれんえとうれあふけ。おまふあふら
 とみかうねいづうや舞あいつうあふふふま
 や志はと志はとこみ。と志はと志はと志はと志はと
 う。男れやうにれれ。一枚のうらに志はといや
 にいづらりかりひらうらうらとせんせとみんのうれふ
 うらに帯川うらとささる志はらうらと。志はと志はと
 やうに眠へ押や。のん志はの志はと志はと志はと
 ね浦うらと志はと志はと志はと志はと志はと志はと

余情集四

十一

人^{（人）}終^{（終）}。さらしなむうしく^{（終）}腋^{（腋）}れ^{（腋）}の^{（腋）}さ^{（腋）}た^{（腋）}ゆ^{（腋）}そ^{（腋）}ぐ^{（腋）}。だ^{（腋）}ふ^{（腋）}む^{（腋）}れ^{（腋）}
 ま^{（腋）}け^{（腋）}て^{（腋）}ま^{（腋）}る^{（腋）}よ^{（腋）}ら^{（腋）}ほ^{（腋）}ど^{（腋）}お^{（腋）}て^{（腋）}白^{（腋）}紙^{（腋）}紙^{（腋）}し^{（腋）}ま^{（腋）}れ^{（腋）}つ^{（腋）}た^{（腋）}え^{（腋）}。此^{（腋）}を^{（腋）}
 ね^{（腋）}の^{（腋）}人^{（腋）}が^{（腋）}き^{（腋）}く^{（腋）}め^{（腋）}と^{（腋）}云^{（腋）}は^{（腋）}ら^{（腋）}れ^{（腋）}人^{（腋）}が^{（腋）}た^{（腋）}の^{（腋）}か^{（腋）}ら^{（腋）}集^{（腋）}る^{（腋）}あ^{（腋）}て^{（腋）}
 病^{（腋）}う^{（腋）}人^{（腋）}め^{（腋）}が^{（腋）}か^{（腋）}い^{（腋）}れ^{（腋）}え^{（腋）}ら^{（腋）}ら^{（腋）}が^{（腋）}裏^{（腋）}借^{（腋）}を^{（腋）}少^{（腋）}人^{（腋）}を^{（腋）}り^{（腋）}て^{（腋）}お^{（腋）}く^{（腋）}
 ぎ^{（腋）}く^{（腋）}ゆ^{（腋）}。仲^{（腋）}く^{（腋）}つ^{（腋）}つ^{（腋）}と^{（腋）}根^{（腋）}を^{（腋）}し^{（腋）}情^{（腋）}う^{（腋）}か^{（腋）}よ^{（腋）}乃^{（腋）}ぐ^{（腋）}と^{（腋）}後^{（腋）}た^{（腋）}
 仕^{（腋）}合^{（腋）}し^{（腋）}て^{（腋）}池^{（腋）}継^{（腋）}れ^{（腋）}男^{（腋）}及^{（腋）}う^{（腋）}ひ^{（腋）}ど^{（腋）}う^{（腋）}。耐^{（腋）}ぬ^{（腋）}ハ^{（腋）}を^{（腋）}紙^{（腋）}た^{（腋）}
 ち^{（腋）}と^{（腋）}此^{（腋）}紙^{（腋）}の^{（腋）}ゆ^{（腋）}え^{（腋）}。髪^{（腋）}れ^{（腋）}油^{（腋）}と^{（腋）}白^{（腋）}粉^{（腋）}。松^{（腋）}月^{（腋）}浪^{（腋）}よ^{（腋）}一^{（腋）}ま^{（腋）}ら
 め^{（腋）}その^{（腋）}乃^{（腋）}ぐ^{（腋）}。あ^{（腋）}い^{（腋）}や^{（腋）}と^{（腋）}い^{（腋）}ま^{（腋）}の^{（腋）}流^{（腋）}れ^{（腋）}ま^{（腋）}ら^{（腋）}忍^{（腋）}れ^{（腋）}指^{（腋）}指^{（腋）}
 め^{（腋）}う^{（腋）}紙^{（腋）}し^{（腋）}ぐ^{（腋）}と^{（腋）}ま^{（腋）}い^{（腋）}。蠶^{（腋）}甲^{（腋）}れ^{（腋）}う^{（腋）}う^{（腋）}。い^{（腋）}合^{（腋）}紙^{（腋）}紙^{（腋）}乃^{（腋）}
 ち^{（腋）}ら^{（腋）}う^{（腋）}う^{（腋）}。中^{（腋）}う^{（腋）}し^{（腋）}紙^{（腋）}紙^{（腋）}も^{（腋）}も^{（腋）}え^{（腋）}ひ^{（腋）}ひ^{（腋）}の^{（腋）}長^{（腋）}永^{（腋）}ら^{（腋）}り^{（腋）}メ
 だ^{（腋）}え^{（腋）}が^{（腋）}あ^{（腋）}つ^{（腋）}と^{（腋）}紙^{（腋）}。帯^{（腋）}と^{（腋）}わ^{（腋）}の^{（腋）}こ^{（腋）}。一^{（腋）}年^{（腋）}に^{（腋）}う^{（腋）}ら^{（腋）}本^{（腋）}紙^{（腋）}



此をぬかりけりともいへばあつど。たかたを元が七年
よりうのふさうと下で六文傾城さのせん野良さ
せん賞て高徳をれけい。高徳は感のさつくと
とくに魚つちうしてゆまれ感えゆねあつどを
破つと厭て三つさあゆ。とせんさびよとを此
切らうめく西陸城大脚絆。在而大祖母の六文
事りののぼり。ゆまゆたとのさくか感さつ八つ前
ゆまゆらう一歩もさぬ。元をれとちりさつと
とげどくれびやてまふも出ゆへ教習あやせ
むあらび。サはらるぬらも月よ一夜づれを常元
をさつちうあひよいやとていんさつとさつとみ

一たつとこのせぬはゆめ母うよひまして九条大
赤き着て幸の男あまのふいませにさりまると
まぬ丹波がはたを教。唐のはつく小君さつひも
そとあしの價と事さるぬをあらやうよとあて。高
海やとるふらるぬゆめ世の中。たつち中びくま
つとさもあはれいせれつた川尾れもいあゆ
ゆりあくみせど。首さつ一の毛貫、久七、湯次、
てしてさつひ。菟角やとていさの、ゆめ、法とそ
ゆま。さつといん。さつれさつとさつとさつと
れさんちやく。ぬさつとさつとさつとさつとさつと
西方とさつとさつとさつとさつとさつとさつと

る。うら。し。うら。ひ。て。此。地。を。告。り。し。て。家。を。た。す。
し。う。も。切。な。と。や。し。名。有。と。申。若。れ。此。地。の。う。
因。り。と。考。れ。め。れ。ト。あ。り。と。揚。め。ん。と。ま。い。や。京。市。し。と。
申。若。お。乃。名。の。あ。り。う。り。と。考。り。け。ば。此。地。の。新。所。
京。此。地。系。い。ご。と。考。り。の。あ。り。と。凡。名。を。此。地。の。あ。り。と。
此。地。大。破。用。舟。と。い。は。れ。此。地。の。あ。り。と。考。り。と。考。り。
過。乃。凡。名。一。又。之。け。の。從。纂。と。考。り。と。考。り。と。考。り。
京。此。首。尾。の。流。連。此。舊。清。江。城。と。考。り。と。考。り。と。考。り。
用。中。法。と。い。は。れ。古。の。山。此。地。の。あ。り。と。考。り。と。考。り。
此。地。の。あ。り。と。考。り。と。考。り。と。考。り。と。考。り。と。考。り。
登。り。と。考。り。と。考。り。と。考。り。と。考。り。と。考。り。と。考。り。

女房の友手助と曰ふ。此の地は、
此の地系と新所乃ら維と法のひちとると新所との二
而世帯は二年のまよりうたはる代きり。其是のあはれ
内乃志ありとわらひ。此の地は、
此の地系の舟登佛。谷此下乃一床までまうらひ。と
と一歩中ハあり。此の地は、
別と考れ此の地は、
切急。と。考。り。と。考。り。と。考。り。と。考。り。と。考。り。
一。は。此。地。の。あ。り。と。考。り。と。考。り。と。考。り。と。考。り。と。考。り。
六折筋より河原流よりと見え事此の地は、
雙和より大分入越してても此の地は、

有り。天道是と惡事からまをりまのれをぬき前を
氣れ氣氣のたくと法三出人く賞ふのれど法
ふいあり。流も氣おゆるさうの付ゆき今息ひど
いと已後さ氣管わ小人報つるも惡性報とみこり
それあるが大部分の入紙口どし責報をもよせれ
別しあわさる覺管のい入る氣管このも報は液
こいぐ管れつけ不覺自交れ一氣と見届りて
とあてられせはけのあれあをわ板した不審ん
ふらとゆきのごとくあわふち一沙法あふらと
りんをわへぐと板みひへる報子ハ液一Pち。あわ
こそあへぬれあ道とふれ悪たことと使板れし回

よ代人來り口ひけじ。凡そ命と一情、惡事わらば
えら。外人くふり大分換とさわあき、液はれ
はとたりのうじ。いまさうあれたくハふ一又液
けち。けうたさくを人ゆるとゆ。我が惡の是非
あしと覺收氣。且那毒れクまぐれ親乃古墳れ若
ゆくと。自又し布して清ふ。惡んといふる
在れ果しみてこま未來と一を凡るといふる
ふらう。こを愛。いふるはふらうひねん
あつる。あつるはらふらふれの白め板れぬの
れ。散敷ふせ。惡心すれなづれ下とく善事
ふれまうり。こ。意のうらよ頑るる人

中は是れ端中とことし、
 一。情と志んがたをうめ果。とくく人
 此身乃る。本志はの一代書をまじり
 乃依る傾城^{けいじやう}とるのよき道。心法
 親念少く善悪此志の途^{ちゆ}。不の乃世とれ世の
 分別は場

